



大人の SNS 活用術

志茂田景樹さんの ライフワークになった SNSでの人生相談

聞き手=高須賀 哲

い ま、膨大な数の人々が SNS をやっています。僕がやっているツイッターだけでも、登録している人数は相当なものです。そんな SNS という大海に僕も糸を垂らしてみれば、いろいろと有益な情報を引き出すことができるんじゃないかと考えたのが、ツイッターをはじめたきっかけです。また、140字以内という制限があるため、時間をかけずに取り組めるというのもツイッターを選んだ理由です。

最初にツイートしていた内容は、思いついても数秒後には念頭から去ってしまっただけのアイデア、かつて書いた小説の中のセリフなどさまざま。そのうち、いつも自分が漠然と考えていることで、他の人も同じように思うことがあるんじゃないかな？ということをつぶやくようになり、ツイートが増えてきたんです。そうすると、フォローワーから、身の

上相談が自然と舞い込むようになり、した。それに答えているうちに、いつの間にか、いまのようなツイッターを使った人生相談という形式ができあがったのです。

人生相談をはじめて3年ほどになりますが、仕事や恋愛についてなど相談内容はさまざまです。相手の人となりが詳しくわからなくても、何となく気配を感じとって答えます。相談に対してツイートを返すタイミングは、寝る前など余裕のある時です。それほど時間はかかりません。いただいた相談には、できる限り順番に答えるようにしています。

人生相談は
する方にも
される方にも
ためになるんだ……



人生相談をしていると様々なことについて考えさせられます。それは僕に

とってひじょうに有益なことです。その一方で、僕の方から「こういう考え方もあるんじゃないか？」と20数万人ものフォローワーに広く再提案することもできます。これこそ、SNSならではの利点といえるでしょう。

このツイッターによる人生相談ですが、応用すればもっと人の役に立つ使い方ができるのではないのでしょうか？ たとえば、医師や介護士、臨床心理士、福祉関係の仕事に携わってきた方々が、専門知識をもとに相談に答える。そうすれば、事例や対応策がどんどん蓄積され症例として役立てることもできるはずですよ。

また、その際、わからないことや悩んだことがあれば、同僚に相談したり、ネットで調べることで、各分野への造詣も深まっていくはずですよ。医療関係に限らず、専門分野を持っていて、まだツイッターをはじめていない方がいれば、ぜひその知識を生かしてみたいかどうか。

志茂田景樹しもたけき

1940年、静岡県生まれ。小説家、絵本作家、タレントとして活動。1976年、「やっこと探偵」で小説現代新人賞を受賞してデビュー。1980年には、「黄色い牙」で直木賞を受賞。その後、奇抜なファッションとキャラクターが注目されてタレントとしても活動。近年は、「よい子に読み聞かせ隊」を結成し、読み聞かせを普及させるボランティア活動を行っている。